

黒部市民病院新改革プランの点検・評価
(平成29年度実績)

平成30年9月

1. はじめに

黒部市は、平成27年3月に新たに総務省から示された「新公立病院改革ガイドライン」を受け、平成29年3月に「黒部市民病院新改革プラン」を策定しました。

この新改革プランの計画期間は平成28年度から平成32年度までの5年間で、黒部市病院事業運営協議会において毎年、点検・評価・公表を行います。

2. 評価方法

目標に対する評価を以下の区分で行いました。

区 分	評価の内容
A	目標以上に達成している
B	目標を達成し、一定の実績がある
C	目標が未達成で実績不足である

3. 点検・評価

点検・評価は、「医療機能等指標に係る数値目標」「経営指標に係る数値目標」について行いました。

詳細は、次頁 黒部市民病院新改革プランの進捗状況及び評価①～④を参照願います。

黒部市民病院新改革プランの進捗状況及び評価(平成29年度)①

項目・区分等		最終目標 (32年度)	単位	目標設定の考え方	29年度 目標	実績	取り組みと実績及び課題等	自己評価																															
医療機能等指標に係る数値目標	紹介率	40.0 ↓ 50.0	%	地域の医療機関との連携を進めるため、紹介率・逆紹介率の向上を目指す	36.0	35.5	<ul style="list-style-type: none"> 地域医療支援病院の届出の必須条件となっている紹介率・逆紹介率の向上にむけて医師、看護師、事務など病院全体で取り組んでいる。当院の目標としては紹介率50%逆紹介率70%であるが平成30年度全体でこの数字はクリアしたいと考えている。ただ紹介率の50%をクリアするには開業医との協力がなく達成することができないことから、今後も引き続き連携の強化を図っていきたい。 	B																															
	逆紹介率	30.0 ↓ 70.0	%	地域医療支援病院の届出(H31年度取得予定)に向けて紹介率50%、逆紹介率70%以上に目標値設定を見直す	25.0	36.4		A																															
	新入院患者数	8,650	人	基幹病院としての役割を果たし、新入院患者数の増を目指す	8,470	8,568	<ul style="list-style-type: none"> 紹介率の上昇に伴い新入院患者が増えている。 平均在院日数については短縮が図られ、急性期病院としての機能が維持されており、今後も目標数値達成に努める。 	A																															
	初発がん受診患者数 (注)数値の確定には2年を要するため変動有	600	人	がん診療連携拠点病院として初発がんの受診患者数の増を目指す	600	605	<ul style="list-style-type: none"> ガン診断、治療体制の充実 他施設との連携強化 <table border="1"> <thead> <tr> <th>(件)</th> <th>診断のみ</th> <th>診断・治療</th> <th>他施設診断・治療</th> <th>計</th> <th>治療有計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>平成27年度</td> <td>40</td> <td>504</td> <td>60</td> <td>604</td> <td>564</td> </tr> <tr> <td>平成28年度</td> <td>45</td> <td>500</td> <td>73</td> <td>618</td> <td>573</td> </tr> <tr> <td>平成29年度</td> <td>68</td> <td>529</td> <td>76</td> <td>673</td> <td>605</td> </tr> </tbody> </table>	(件)	診断のみ	診断・治療	他施設診断・治療	計	治療有計	平成27年度	40	504	60	604	564	平成28年度	45	500	73	618	573	平成29年度	68	529	76	673	605	B							
	(件)	診断のみ	診断・治療	他施設診断・治療	計	治療有計																																	
	平成27年度	40	504	60	604	564																																	
平成28年度	45	500	73	618	573																																		
平成29年度	68	529	76	673	605																																		
内視鏡手術件数 (注)内視鏡センター施行分除く	900	件	高度な医療の提供状況の把握として、内視鏡手術件数の増を目指す	850	512	<ul style="list-style-type: none"> 29年度は呼吸器外科の入院対応が無かった。30年度は7月より対応可能となり、改善される見込み。 <table border="1"> <thead> <tr> <th>(件)</th> <th>外科</th> <th>整形外科</th> <th>産婦人科</th> <th>泌尿器科</th> <th>耳鼻科</th> <th>呼吸器外科</th> <th>計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>平成27年度</td> <td>111</td> <td>190</td> <td>155</td> <td>96</td> <td>66</td> <td>31</td> <td>649</td> </tr> <tr> <td>平成28年度</td> <td>134</td> <td>141</td> <td>144</td> <td>90</td> <td>79</td> <td>27</td> <td>615</td> </tr> <tr> <td>平成29年度</td> <td>116</td> <td>111</td> <td>137</td> <td>103</td> <td>45</td> <td>0</td> <td>512</td> </tr> </tbody> </table>	(件)	外科	整形外科	産婦人科	泌尿器科	耳鼻科	呼吸器外科	計	平成27年度	111	190	155	96	66	31	649	平成28年度	134	141	144	90	79	27	615	平成29年度	116	111	137	103	45	0	512	C
(件)	外科	整形外科	産婦人科	泌尿器科	耳鼻科	呼吸器外科	計																																
平成27年度	111	190	155	96	66	31	649																																
平成28年度	134	141	144	90	79	27	615																																
平成29年度	116	111	137	103	45	0	512																																
救急患者に占める入院患者の割合	20.0	%	救急の適正な利用状況の把握のため入院患者数の割合を一定以上に保つ	20.0	17.7	<ul style="list-style-type: none"> 目標数値には達していないが、一定の入院割合が確保されており地域救命センターとしての役割を担っている。今後も割合上昇を目指した対応を行ってきたい。 新川医療圏小児急患センター、下新川一次急患センターとの連携 	B																																

自己評価：達成状況評価 A→目標以上、B→一定の実績、C→実績不足

黒部市民病院新改革プランの進捗状況及び評価(平成29年度)②

項目・区分等	最終年度 (32年度)	単位	目標設定の考え方	29年度		取組	実績	課題	自己評価	黒字病院平均																											
				目標	実績					H26	H27	H28																									
経営指標に係る数値目標 1/3	経常収支比率	96.7	%	経常収支比率は病院の経営全体を、医業収支比率は本業での収支をみるための指標であり、100%が損益の分岐点となる。改革プラン期間中は多額の減価償却費の影響により、100%超えを目標とはしない	95.4	96.5	<ul style="list-style-type: none"> 7対1入院基本料の算定継続 看護師の確保 収入増に向けた外部コンサルティングの活用 	<ul style="list-style-type: none"> 7対1入院基本料の算定継続 入院収益の向上 DPC係数増による収益の向上 	<ul style="list-style-type: none"> 急性期一般入院基本料1(旧7対1)の維持 病床機能再編の検討 看護師の確保 	B	103.4	103.1	102.7																								
	医業収支比率	95.0	%		95.4	97.1	<table border="1"> <caption>経営指標1の推移</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>経常収支比率</th> <th>医業収支比率</th> <th>減価償却費を除く医業収支比率</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>平成25年度</td> <td>99.3%</td> <td>99.3%</td> <td>109.0%</td> </tr> <tr> <td>平成26年度</td> <td>100.0%</td> <td>100.8%</td> <td>110.6%</td> </tr> <tr> <td>平成27年度</td> <td>98.7%</td> <td>100.0%</td> <td>107.4%</td> </tr> <tr> <td>平成28年度</td> <td>98.5%</td> <td>98.9%</td> <td>107.9%</td> </tr> <tr> <td>平成29年度</td> <td>96.5%</td> <td>97.1%</td> <td>108.7%</td> </tr> </tbody> </table>			年度	経常収支比率	医業収支比率	減価償却費を除く医業収支比率	平成25年度	99.3%	99.3%	109.0%	平成26年度	100.0%	100.8%	110.6%	平成27年度	98.7%	100.0%	107.4%	平成28年度	98.5%	98.9%	107.9%	平成29年度	96.5%	97.1%	108.7%	A	98.1	97.5	95.5
	年度	経常収支比率	医業収支比率	減価償却費を除く医業収支比率																																	
	平成25年度	99.3%	99.3%	109.0%																																	
	平成26年度	100.0%	100.8%	110.6%																																	
	平成27年度	98.7%	100.0%	107.4%																																	
平成28年度	98.5%	98.9%	107.9%																																		
平成29年度	96.5%	97.1%	108.7%																																		
減価償却費を除いた医業収支比率	106.5	%	上記2つの指標には特殊要因として増改築事業にかかる減価償却費が含まれるため、これを除いて106%以上を保ち将来の黒字化につなげることを目標とする	108.3	108.7	<table border="1"> <caption>経営指標2の推移</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>経常収支比率</th> <th>医業収支比率</th> <th>減価償却費を除く医業収支比率</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>平成25年度</td> <td>99.3%</td> <td>99.3%</td> <td>109.0%</td> </tr> <tr> <td>平成26年度</td> <td>100.0%</td> <td>100.8%</td> <td>110.6%</td> </tr> <tr> <td>平成27年度</td> <td>98.7%</td> <td>100.0%</td> <td>107.4%</td> </tr> <tr> <td>平成28年度</td> <td>98.5%</td> <td>98.9%</td> <td>107.9%</td> </tr> <tr> <td>平成29年度</td> <td>96.5%</td> <td>97.1%</td> <td>108.7%</td> </tr> </tbody> </table>			年度	経常収支比率	医業収支比率	減価償却費を除く医業収支比率	平成25年度	99.3%	99.3%	109.0%	平成26年度	100.0%	100.8%	110.6%	平成27年度	98.7%	100.0%	107.4%	平成28年度	98.5%	98.9%	107.9%	平成29年度	96.5%	97.1%	108.7%	B	105.5	104.6	104.4	
年度	経常収支比率	医業収支比率	減価償却費を除く医業収支比率																																		
平成25年度	99.3%	99.3%	109.0%																																		
平成26年度	100.0%	100.8%	110.6%																																		
平成27年度	98.7%	100.0%	107.4%																																		
平成28年度	98.5%	98.9%	107.9%																																		
平成29年度	96.5%	97.1%	108.7%																																		
給与費対医業収益比率	53.5	%	病院の職員数が適正かどうかを判断する指標。看護師等の人員増の計画もあるが、当院では退職手当負担金を除き最終的に51%以下に抑える	52.0	51.5	<ul style="list-style-type: none"> 適正な職員配置 	<ul style="list-style-type: none"> 臨床検査技師1名、臨床工学技士1名増員 看護師は、臨時職員を含め現状維持 	<ul style="list-style-type: none"> 医業収益増に向けた取組 	B																												
退職手当負担金を除いた給与費対医業収益比率	50.8	%		49.5	48.7	<table border="1"> <caption>経営指標3の推移</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>黒字病院</th> <th>当院</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>平成25年度</td> <td>50.5%</td> <td>48.4%</td> </tr> <tr> <td>平成26年度</td> <td>51.7%</td> <td>46.9%</td> </tr> <tr> <td>平成27年度</td> <td>50.1%</td> <td>48.4%</td> </tr> <tr> <td>平成28年度</td> <td>50.1%</td> <td>48.5%</td> </tr> <tr> <td>平成29年度</td> <td>51.5%</td> <td>48.7%</td> </tr> </tbody> </table>			年度	黒字病院	当院	平成25年度	50.5%	48.4%	平成26年度	51.7%	46.9%	平成27年度	50.1%	48.4%	平成28年度	50.1%	48.5%	平成29年度	51.5%	48.7%	B	51.7	50.1	53.0							
年度	黒字病院	当院																																			
平成25年度	50.5%	48.4%																																			
平成26年度	51.7%	46.9%																																			
平成27年度	50.1%	48.4%																																			
平成28年度	50.1%	48.5%																																			
平成29年度	51.5%	48.7%																																			
材料費対医業収益比率	27.0	%	医業収益に対する材料費の割合を示す指標。平成27年度の黒字病院平均以下を目標とする ・がん治療薬等の高額な新薬の処方増加により目標の見直し25.3%→27.0%	27.0	25.6	<ul style="list-style-type: none"> 材料ごとの個別価格交渉 全国的なベンチマークの活用 内服卸業者1社削減 7→6社へ変更 材料卸業者訪問による直接交渉 	<ul style="list-style-type: none"> 価格交渉値引効果 薬品0.93%削減(約12,000千円) 診療材料1.3%削減(約16,000千円) 	<ul style="list-style-type: none"> 医薬品のジェネリック移行推進 85%以上を目指す(DPC係数関連) 医療材料等の預託推進 	A	25.3	27.0	24.9																									
						<table border="1"> <caption>経営指標4の推移</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>診療材料費他</th> <th>薬品費:その他</th> <th>薬品費:がん治療薬</th> <th>材料費比率</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>平成27年度</td> <td>10.5%</td> <td>11.3%</td> <td>4.9%</td> <td>26.7%</td> </tr> <tr> <td>平成28年度</td> <td>10.7%</td> <td>9.3%</td> <td>6.5%</td> <td>26.5%</td> </tr> <tr> <td>平成29年度</td> <td>9.5%</td> <td>9.9%</td> <td>6.2%</td> <td>25.6%</td> </tr> </tbody> </table>			年度	診療材料費他	薬品費:その他	薬品費:がん治療薬	材料費比率	平成27年度	10.5%	11.3%	4.9%	26.7%	平成28年度	10.7%	9.3%	6.5%	26.5%	平成29年度	9.5%	9.9%	6.2%	25.6%									
年度	診療材料費他	薬品費:その他	薬品費:がん治療薬	材料費比率																																	
平成27年度	10.5%	11.3%	4.9%	26.7%																																	
平成28年度	10.7%	9.3%	6.5%	26.5%																																	
平成29年度	9.5%	9.9%	6.2%	25.6%																																	

自己評価 : 達成状況評価 A→目標以上、B→一定の実績、C→実績不足

黒部市民病院新改革プランの進捗状況及び評価(平成29年度)③

項目・区分等	最終年度 (32年度)	単位	目標設定の考え方	29年度		取組	実績	課題	自己評価	黒字病院平均																					
				目標	実績					H26	H27	H28																			
経営指標に係る数値目標 2 / 3	院外処方箋発行率	85	%	薬剤師の人員確保が困難な中、薬剤師の入院患者関係業務への比重拡大のため院外処方箋発行率の増を目指す	80.0	79.2	<ul style="list-style-type: none"> 従来、院内処方だった透析患者に対し院外処方のメリットを説明 医師に院外処方の必要性を周知 	<ul style="list-style-type: none"> 対前年1.3%改善 院内処方であった透析患者のうち約20名(対前年度53%増加)の方が院外処方に移行 	<ul style="list-style-type: none"> 院外処方箋発行率向上の必要性を職員の共通認識へ 院外処方箋のメリットの啓蒙 	B	県内自治体病院平均 82.9 86.4 85.0																				
	一日当たり外来患者数	840	人	他の医療機関との機能分化・医療連携を進め外来患者数の減を目指す	870	836	<ul style="list-style-type: none"> 逆紹介の推進 	<ul style="list-style-type: none"> 対前年 一日当たり外来患者数 内科 △12.3人 整形外科 △5.8人 皮膚科 △4.5人 他 計 △23.3人 	<ul style="list-style-type: none"> 他の医療機関と連携を推進し、更なる逆紹介件数増を目指す 	B	859	889	910																		
	一日当たり入院患者数 (一般のみ / 405床)	340 ↓ 320	人	改革プラン策定当時の看護体制・看護師数では一日当たり入院患者数の上限は345人程度となる。この値により近い数値を目標としていた。	340	326	<ul style="list-style-type: none"> 【患者確保対策】 ・広報誌による他の医療機関へのPR ・医師派遣要請(大学) 	<ul style="list-style-type: none"> 対前年 一日当たり入院患者数 △9.7人 病床利用率 △2.4% 	<ul style="list-style-type: none"> 他の医療機関の訪問 ・医師派遣要請の継続(大学) ・新入院患者の増 ・看護師数の増 	B	350人 /427床	363人 /432床	333人 /425床																		
	病床利用率 (一般のみ / 405床)	84.0 ↓ 79.0	%	地域医療構想や現在の病棟の看護師数を考慮すると、当時の目標は過大であり現状に合わせて目標設定を見直す。	84.0	80.4	<table border="1"> <caption>病床利用率と平均在院日数の推移</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>病床利用率 (%)</th> <th>平均在院日数 (日)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>平成25年度</td> <td>85.5%</td> <td>14.4日</td> </tr> <tr> <td>平成26年度</td> <td>90.2%</td> <td>14.7日</td> </tr> <tr> <td>平成27年度</td> <td>83.9%</td> <td>13.9日</td> </tr> <tr> <td>平成28年度</td> <td>82.8%</td> <td>13.6日</td> </tr> <tr> <td>平成29年度</td> <td>80.4%</td> <td>12.9日</td> </tr> </tbody> </table>			年度	病床利用率 (%)	平均在院日数 (日)	平成25年度	85.5%	14.4日	平成26年度	90.2%	14.7日	平成27年度	83.9%	13.9日	平成28年度	82.8%	13.6日	平成29年度	80.4%	12.9日	B	81.9% /427床	82.9% /432床	78.4% /425床
	年度	病床利用率 (%)	平均在院日数 (日)																												
	平成25年度	85.5%	14.4日																												
	平成26年度	90.2%	14.7日																												
平成27年度	83.9%	13.9日																													
平成28年度	82.8%	13.6日																													
平成29年度	80.4%	12.9日																													
平均在院日数 (一般のみ / 405床)	13.4 ↓ 13.0	日	適正な入院期間の推進により在院日数の短縮を目指す。 地域医療構想や現在の病棟の看護師数を考慮し平成30年度以降の目標値を見直すこととし、値は黒字病院の平均値とした。	13.7	12.9	<ul style="list-style-type: none"> 【入院期間適正化対策】 ・地域医療連携室社会福祉士、看護師等による積極的な退院支援の実施 ・クリニカルパス見直し 	平均在院日数 △0.7日	<ul style="list-style-type: none"> 【入院期間適正化対策】 ・社会福祉士、看護師等による更なる退院支援の実施 ・疾患毎ベンチマークによるクリニカルパス見直し 	A	12.4日 /427床	11.9日 /432床	13.0日 /425床																			
一日当たり外来単価	17,000	円	症状の安定した患者を地域の医療機関に逆紹介することにより単価増を目指す	16,100	17,152	<ul style="list-style-type: none"> 新たな施設基準の取得 ・専門医療、急性期医療を必要とする患者の他の医療機関からの積極的な受入れ 	<ul style="list-style-type: none"> 対前年 846円増 (16,306円→17,152円) ・高額な注射・投薬による増収額 58,687千円 ・日帰り手術増による手術・処置増収 38,029千円 	<ul style="list-style-type: none"> 診療報酬改定における対応(産科以外での妊婦患者の判別) 	A	14,577円	16,510円	13,670円																			
一日当たり入院単価	47,500 ↓ 51,000	円	新たな施設基準の取得、紹介・逆紹介の推進により入院単価増を目指す 将来の地域医療支援病院・総合入院体制加算、DPC係数などを考慮し単価の見直す。 H30: 49,000円 H31: 50,000円	47,500	48,258	<ul style="list-style-type: none"> 新たな施設基準の取得(患者サポート体制充実加算) ・コンサルティングによるDPC診療の院内研修 ・急性期診療終了後の他の医療機関への積極的な紹介 	<ul style="list-style-type: none"> 対前年2,620円増 (45,638円→48,258円) ・血液疾患治療等に係る注射薬処方の増収額 31,223千円 ・7対1及びDPC診療方針の改善(在院日数の適正化)等による入院費増収 170,876千円 	<ul style="list-style-type: none"> 急性期一般入院基本料1(旧7対1)の維持 ・地域医療支援病院・総合入院体制加算を目指した取り組み ・外部コンサルティングを活用したDPC係数増 	A	57,787円	57,483円	55,480円																			

自己評価 : 達成状況評価 A→目標以上、B→一定の実績、C→実績不足

黒部市民病院新改革プランの進捗状況及び評価(平成29年度)④

項目・区分等	最終年度 (32年度)	単位	目標設定の考え方	29年度		取組	実績	課題	自己評価	黒字病院平均			
				目標	実績					H26	H27	H27	
経営指標に係る数値目標 3 / 3	医師の確保 (年度末職員数、初期研修医除く)	72	人	神経内科医もしくは精神科医、呼吸器内科医等常勤医が1人の診療科の複数人体制を目標とする	71	69	<ul style="list-style-type: none"> 金沢大学及び富山大学の医局との連携 常勤医1人診療科における複数人体制の検討 	<ul style="list-style-type: none"> 年度末 医師数69名 神経内科、精神科、呼吸器内科等の増員なし。 H28年度末 眼科医(金沢大学)退職、補充なし→富山大学医局からの派遣へ切替(H29.4～) H28年度末 呼吸器外科(富山大学)退職→診療応援(H29.4～) 	<ul style="list-style-type: none"> 診療ニーズの高い呼吸器内科、神経内科、精神科等増員を継続要望 関連大学医局との密な情報交換及び連携強化 	B	79人	81人	78人
	看護師の確保 (年度末職員数)	330	人	7対1看護体制の維持のため、人員増を図る	320	322	<ul style="list-style-type: none"> 県内・近隣県の看護学校訪問 看護学生向け病院見学会の実施 看護部スマートフォン対応ページの開設・充実 ライフステージに合わせた働き方の提案や支援制度の周知 	<ul style="list-style-type: none"> 29年4月時点では、332名(同月比2名減) 7対1看護体制の継続 	<ul style="list-style-type: none"> 産休・育休・介護などライフステージに合わせた多様な働き方の提案 ワークライフバランス推進を目指した更なる人材確保 	B	363人	370人	358人
	他会計繰入金対医業収益比率(資本金収入分含む)	7.9	%	一般会計において負担すべき経費について繰入て比率のアップを図る	6.2	6.2	<ul style="list-style-type: none"> 一般会計として負担すべき経費を整理し、繰出を要望 	<ul style="list-style-type: none"> 前年度比 104,625千円の繰入増 	<ul style="list-style-type: none"> 今後も収支見通しに基づいた繰入額の確保 	B	9.4%	11.0%	11.4%
	現金保有残高	1,800	百万円	増改築事業等で借り入れた企業債の償還が徐々に始まり将来的に資金の減少が見込まれるが、キャッシュフロー残高は改革プラン期間中増加を図る	1,500	1,903	<ul style="list-style-type: none"> 予算の策定や執行において経費の削減や収益増が見込まれる事業に対する投資を推進 	<ul style="list-style-type: none"> 7対1入院基本料の増収による現金増 	<ul style="list-style-type: none"> 企業債償還への対応と現金の確保 	A			

自己評価：達成状況評価 A→目標以上、B→一定の実績、C→実績不足

4. 平成30年度第1回黒部市病院事業運営協議会でいただいたご意見

- ・感染、周産期、災害、がん等の政策医療について、県全体の連携を進めるとともに新川医療圏の医療支援・介護支援の推進主体となってほしい
- ・紹介率、逆紹介率をより高め、入院だけでなく外来でも他の医療機関との分化・連携強化を図り地域医療支援病院を目指してほしい
- ・物忘れ外来、緩和ケア外来などの開設・強化の実現に向け、医師確保の働きかけを継続してほしい
- ・看護師確保につながる病院のPR強化を工夫・継続してほしい